正負の数の数直線・絶対値・数の大小

解答一覧と、要所の確かめ　　100点満点

解答一覧

1　(1)　−5　　(2)　−3.5　　(3)　+4.5

(4)　−10、−9　　(5)　−6.5

2　(1)　+86　　(2)　−2　　(3)　9　　(4)　85

(5)　−47、+47

3　(1)　＞　　(2)　＜　　(3)　＜　　(4)　＞

(5)　−2.5、−2、0、7、8

4　(1)　−3、0、7、1、−4　　(2)　7、1

要所の確かめ

1　数直線

原点より右に正の数、左に負の数があり、となり合う2つの整数のちょうど中間の点は、小数第1位が5の数を表します。

(2)　$-4 < -3.5 < -3$　　(3)　$4 < 4.5 < 5$

(4)　$-10 < -9.5 < -9$　　(5)　0から左（負の方向）へ6.5 → −6.5

2　反対の数と絶対値

反対の数は0をはさんで反対側にある0からの距離が等しい数（0の反対の数は0です）で、絶対値は0からの距離なので負の数になりません。

(3)　0から−9までの距離は9　　(4)　0から+85までの距離は85

(5)　0から47離れた点は2つ：−47、+47

3　数の大小

数直線で右にある数ほど大きく、負の数どうしでは絶対値が大きい方が小さくなります。

(1)　$-7 < 0 < 3$　　(2)　$-9 < -6$（−6の方が0に近い）

(3)　$-1 < 0$　　(4)　$-2 < -1.5 < -1$

(5)　$-2.5 < -2 < 0 < 7 < 8$

4　自然数と整数

整数は負の整数・0・正の整数で、自然数は正の整数だけなので、0や負の整数は自然数に含まれません。

(1)　整数でない数：0.5、$-\frac{1}{8}$　　(2)　自然数でない整数：−3、0、−4

採点：答えが正しければ、各問の配点を与えます。複数の数を答える問題（1(4)・2(5)・4(1)・4(2)）は、答える順序を問わず、過不足なくすべて正しいときだけ配点を与えます。並べる問題（3(5)）は、指定の順序ですべて正しいときだけ配点を与えます。正の数の答えは＋の有無を問いません。ちょうど中間の数は、小数・分数のどちらで答えても正解とします。
確かめは考え方の一例です。